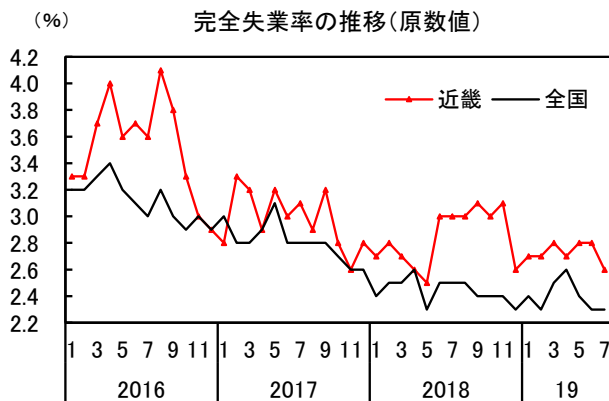
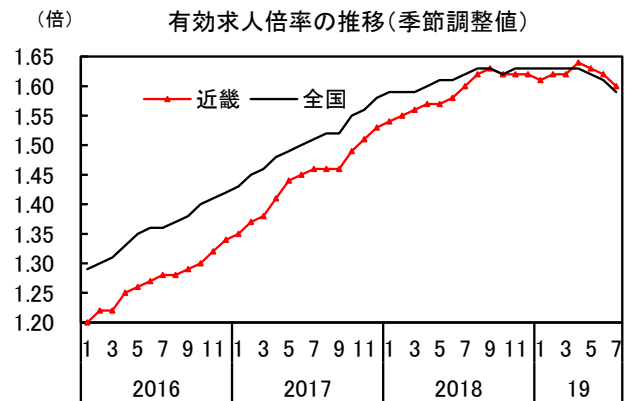


関西の景気ピックス【雇用関連（19年7月）】

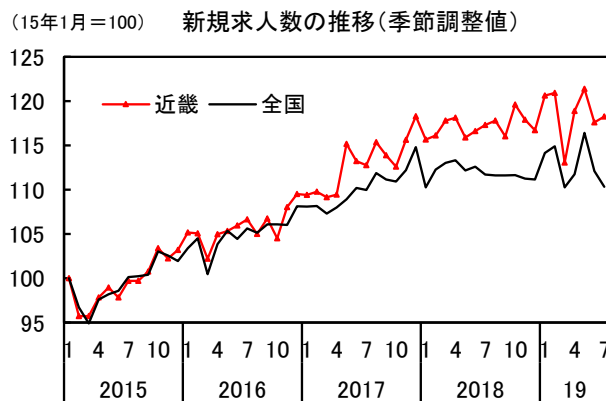
- 19年7月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は2.6%（原数値）と、前年比で0.4ポイントの低下となった。前年を下回るのは2か月連続。変化の内訳は、就業者数が前年比で19万人増えたほか、失業者は4万人減った。また、非労働力人口も17万人の減少となった。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、19年5月は1.60倍（季節調整値）と前月比で0.02ポイント低下した。低下したとはいえ、1.60倍という水準は、1974年4月以来（1.72倍）の極めて高いものである。
- 近畿の失業率は低い水準が続き、有効求人倍率も1.6倍台の高水準にあるなど、雇用情勢は概ね堅調に推移している。ただし、賃金の推移は前年を上回る月はあるものの、力強さに欠けているほか、求人倍率も緩やかに低下しつつあるなど、今後の推移については予断が許されない。



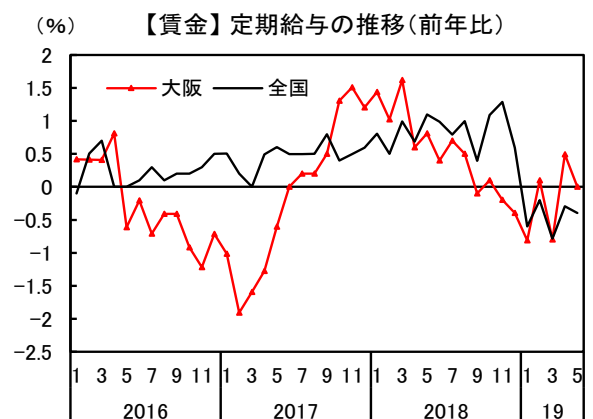
(出所)総務省「労働力調査」



(出所)厚生労働省「職業安定業務統計」



(出所)厚生労働省「職業安定業務統計」



(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」